



季節や月の表し方について

私たち学校で使用している光村図書の小学校国語の教科書において、和風月名（睦月、如月、弥生など）を本格的に学習するのは小学4年生です。1年間を通して学ぶ「季節の言葉」という小单元の中で学習します。この季節感と沖縄の季節感は大きく違って、子どもたちはイメージすることが難しいと思います。

日本の伝統的な「和風月名（睦月、如月…）」と、沖縄（琉球圏）で古くから使われてきた「二十四節気の方言・特有の季節を表す言葉（沖縄の二十四節気）」があります。沖縄では、中国から伝わった旧暦（太陰太陽暦）ベースの年中行事が今も生活に深く根づいています。そのため、二十四節気も独自の美しい方言（しまくとぅば）で呼ばれ、それに紐づく独特な言葉や寒暖を表す表現がたくさんあります。分かりやすく表にまとめて整理しました。

1 和風月名と沖縄の季節を表す言葉

- 1月睦月（むつき） **ハルピーサー**（田植え寒さ）2月半ば頃。この時期に田植えを行うための寒さ。
- 2月如月（きさらぎ） **ニンガチカジマーイ**（二月風廻り）3月頃、低気圧の通過で急に風向きが変わり海が荒れる天候。
- 3月弥生（やよい） **ウリズン（陽春）/ワカリピーサー**
春分から梅雨入り前の、1年で最も爽やかで大地が潤う季節 「ワカリピーサー」は冬の別れの最後の寒さ
- 4月卯月（うづき） **ワカナツ（若夏）**初夏の頃。ウリズンに芽吹いた草木が緑を濃くしていく時期
- 5月皐月（さつき） **スーマンボースー（小満芒種）** 沖縄の梅雨時期のこと（二十四節気の小満芒種から）
- 6月水無月（みなづき） **カーチーペー（夏至南風）** 梅雨明け直後に吹く、本格的な夏の到来を告げる強い南風
- 7月文月（ふづき） **ティダドゥームイ（太陽留まり）** 日差しが最も強く、1年で最も暑い盛夏
- 8月葉月（はづき） **リッスーウッドゥリ（立秋大風）** 立秋から1ヶ月ほど続く風が止んで非常に暑い時期
- 9月長月（ながつき） **ミーニシ（新北風）** 秋の訪れを告げる、最初に吹く冷たい北風
- 10月神無月（かんなづき） **タカヌシーバイ（鷹の小便）** ミーニシの影響で天候が不安定になりパラパラと降る小雨。
- 11月霜月（しもつき） **ジュウガチナチグア（十月夏小）** 立冬の頃、北風が和らいで一時的に夏のように暑くなる小春日和。
- 12月師走（しわす） **トゥンジー・ムーチャーピーサー** 冬至（トゥンジー）や鬼餅（ムーチャー）の頃の、沖縄が1年で最も寒くなる時期。

沖縄の彩り豊かな季節の言葉：しまくとぅばで感じる二十四節気

沖縄（琉球圏）では、中国から伝わった旧暦ベースの年中行事が今も生活に深く根ざしています。二十四節気は独自の「しまくとぅば（方言）」で呼ばれ、風向きや寒暖の変化を表す言葉が、日々の暮らしや伝統行事と密接に結びついているのが特徴です。

季節を告げる沖縄特有の風物詩

ウリズン（陽春）：一年で最も爽やかな季節
春分から梅雨入り前の、大地が潤い草木が芽吹く沖縄の黄金節を指します。

カーチーペー（夏至南風）：本格的な夏の到来
梅雨明け直後に吹く強い南風。これが吹くと沖縄は一気に盛夏へと変わります。

ミーニシ（新北風）：秋の訪れを告げる冷たい風
9月頃に吹く最初の北風で、厳しい暑さの終わりや秋の気配を知らせてくれます。

暮らしと共にある行事

スーマンボースー（小満・芒種）：
沖縄の梅雨
二つの節気が重なる時期が梅雨に当たるため、合わせてこう呼ばれ大雨を警戒します。

小満 芒種

沖縄の「寒さ（ピーサー）」に対する独自の感性と呼び名



ワカリピーサー
(3月・春分頃)
冬の別れを告げる、最後の一時的な寒さ。



ムーチャーピーサー
(旧暦12月8日頃)
鬼餅（ムーチャー）を作る時期の、一年で最も厳しい寒さ。



トゥンジーピーサー
(冬至の頃)
冬至の時期に訪れる、本格的な冬の寒さ。



シーミー（清明）：
ご先祖様と楽しむお墓参り
門中が集まり、お墓の前で豊饗料理を囲んでピクニックのように賑やかに過ごします。



トゥンジージュシー：
冬至に食べる健康祈願の食
冬至（トゥンジー）に、里芋入りの炊き込みご飯を供え、家族の健康を願います。